



2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月14日

上場会社名 株式会社トライステージ 上場取引所 東
 コード番号 2178 URL <https://www.tri-stage.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 倉田 育尚
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 棚田 正人 TEL 03-5402-4111
 四半期報告書提出予定日 2022年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績（2021年3月1日～2021年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	35,962	△0.8	1,074	3.1	1,075	△1.3	675	3.0
2021年2月期第3四半期	36,241	△6.3	1,042	192.0	1,089	262.6	655	280.0

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 845百万円 (29.1%) 2021年2月期第3四半期 654百万円 (284.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	26.94	26.92
2021年2月期第3四半期	25.66	25.66

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第3四半期	15,416	7,306	47.3
2021年2月期	15,182	6,815	43.7

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 7,297百万円 2021年2月期 6,636百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2022年2月期	—	0.00	—		
2022年2月期（予想）				7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2022年2月期の連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,442	1.4	1,278	△3.2	1,239	△7.2	840	△1.0	33.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
（注）特定子会社の異動には該当いたしません。が、当社の連結子会社でありましたPT. Merdis Internationalの全株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期3Q	30,517,200株	2021年2月期	30,517,200株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	5,444,261株	2021年2月期	5,458,261株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期3Q	25,060,314株	2021年2月期3Q	25,537,848株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項等については添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 当社は2022年1月14日（金）に機関投資家向けに四半期決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容については、当日使用する四半期決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナワクチン接種の進展等により経済社会活動が正常化に向かい、厳しい状況が緩和されつつあるものの、先行きについては依然として不透明な状況が続きました。

一方、当社グループのクライアントが属するダイレクトマーケティング市場は、通信販売の定着及びインターネット通販の拡大とともに、拡大基調が続いております。新しい生活様式の定着が進む中で、対面せずに商品を購入できる利便性の高いサービスとしてダイレクトマーケティングの重要性が高まり、ダイレクトマーケティング企業を支援する当社グループの社会的役割も増していると認識しております。

このような環境の下、当社グループは2021年4月12日付で「中期経営計画Tri's vision 2024」を公表いたしました。当中期経営計画では、「ダイレクトマーケティングに、DX・イノベーションを。」をビジョンとして掲げ、データマーケティング強化による顧客提供価値向上、クロスチャネル・AIマーケティングサービスによる顧客拡大、事業の強みとDX化による新規事業立ち上げを基本戦略とし、戦略の実現及び赤字事業の黒字化による利益拡大に注力しております。

当第3四半期連結累計期間は、中期経営計画実現に向けデータマーケティング基盤「Tri-DDM」の機能改修、新サービス開発等に積極的に取り組んでまいりました。

なお、事業の選択と集中の方針の下、2021年10月29日付で連結子会社であるPT. Merdis International (以下、MERDIS社)の全株式を譲渡いたしました。これに伴い、関係会社株式売却損404,531千円を特別損失に計上しております。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は35,962,337千円(前年同期比0.8%減)、売上総利益は4,026,025千円(前年同期比0.5%減)となりました。販売費及び一般管理費は2,951,141千円(前年同期比1.8%減)となり、営業利益は1,074,883千円(前年同期比3.1%増)、経常利益は1,075,176千円(前年同期比1.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は675,232千円(前年同期比3.0%増)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① ダイレクトマーケティング支援事業

テレビ事業は、ダイレクトマーケティング事業者に対し、テレビ番組枠・CMの提供から番組・CM制作、受注管理、顧客管理までダイレクトマーケティングに必要なソリューションを総合的に提供しており、「データ分析に基づく最適な媒体提供」、「売れる映像制作」、「効率的な受注管理」によるテレビ通販での新規顧客獲得支援を強みとしております。また、データマーケティング基盤「Tri-DDM」により、放送枠価値の明確化やコンタクトセンターの適切な運用状況の把握等を実現しております。当第3四半期連結累計期間においては、2021年2月1日付で新設分割した株式会社トライステージメディアを通じたテレビ放送枠仕入れの強化、「Tri-DDM」機能強化による受注効率の改善、映像共感度分析サービスやQRトラッキングサービスによる映像制作力の強化に注力し、売上高及び売上総利益は安定的に推移いたしました。

WEB事業は、株式会社アドフレックス・コミュニケーションズを中心として、リスティング広告最適化を始めとするAIツールの積極導入やテレビとWEBの相互提案を実施し、クライアントの売上及び利益の最大化に取り組んでおります。商談機会の減少により当初想定より遅れたものの、新規クライアント獲得及び既存クライアントとの取引増大が進み、第1四半期連結会計期間にて黒字化いたしました。2021年8月にはOptmyzr, Incとの日本独占パートナー契約締結により、リスティング広告を自動最適化するAIツール「Optmyzr(オプティマイザー)」の提供を開始し、順次既存ツールからの切替えを進めました。

また、2021年4月にはテレビCMの企画・制作・効果検証・最適化・デジタル施策との連動をパッケージ化した運用型テレビCMプラットフォーム「urutere(ウルテレ)」をリリース、同10月にはテレビCM放送とWEB広告をリアルタイムで連動させる広告配信システム「ODASO(オダソー)」をリリースし、テレビ事業及びWEB事業が協働して営業活動を推進しております。

この結果、売上高は20,540,472千円(前年同期比1.9%減)、営業利益は959,752千円(前年同期比17.1%増)となりました。

② DM事業

DM事業は、メールカスタマーセンター株式会社を中心として、「ゆうメール」や「クロネコDM便」等のダイレクトメール発送代行業務に取り組んでおります。また、急速に市場拡大している「ゆうパケット」や「ネコポス」等の小型宅配便（商品DM）への対応に取り組みました。業界トップクラスのDM取扱通数による価格競争力を生かし営業活動は概ね安定的に推移しているものの、集客型イベントの減少等により、一部の業種にてDM発送の差し控えが継続しております。

この結果、売上高は13,937,126千円（前年同期比0.4%増）、営業利益は165,564千円（前年同期比45.6%減）となりました。

③ 海外事業

海外事業は、2021年9月14日付「連結子会社の異動（株式譲渡）及び特別損失の計上に関するお知らせ」にて公表のとおり、当社は2021年10月29日付でMERDIS社の全株式を譲渡いたしました。これにより2022年2月期第3四半期連結会計期間にて同社を連結の範囲から除外しております。また、2022年2月期連結会計年度末をもって、開示セグメントにおける海外事業は消滅いたします。

なお、売上高は577,382千円（前年同期比12.0%減）、営業利益は4,302千円（前年同期比88.2%減）となりました。

④ 小売事業

小売事業は、株式会社日本百貨店の営む「日本百貨店」において、各店舗の収益拡大及び卸売事業の強化に取り組んでおります。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、一部店舗の休業や時間短縮営業等、厳しい状況が続きましたが、プライベートブランド商品の開発や卸事業の拡大が功を奏して同環境下において前年同期を上回る売上高を確保し、赤字幅が縮小しました。また、「ニッポンの百貨をおもしろく」をコンセプトとして、企業ロゴやオンラインショップの刷新に取り組み、2021年9月にブランドリニューアルいたしました。緊急事態宣言が解除された10月以降も一部店舗にて時間短縮営業が続いておりますが、来客数は回復傾向にあります。

この結果、売上高は907,355千円（前年同期比20.8%増）、営業損失は54,774千円（前年同期は119,880千円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ233,560千円増加し、15,416,046千円となりました。これは主に商品が124,537千円減少した一方、現金及び預金が472,161千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の合計は、前連結会計年度末に比べ257,823千円減少し、8,109,476千円となりました。これは主に買掛金が303,862千円、短期借入金が1,674,148千円増加した一方、長期借入金が1,721,194千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の合計は、前連結会計年度末に比べ491,384千円増加し、7,306,569千円となりました。これは主に剰余金の配当を175,412千円行った一方、親会社株主に帰属する四半期純利益を675,232千円計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の通期連結業績予想につきましては、2021年4月12日公表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,451,382	7,923,543
受取手形及び売掛金	6,340,248	6,283,141
商品	196,130	71,592
仕掛品	5,521	1,384
貯蔵品	5,467	5,636
その他	148,987	196,763
貸倒引当金	△62,580	△68,197
流動資産合計	14,085,157	14,413,865
固定資産		
有形固定資産	255,380	164,470
無形固定資産	264,343	219,677
投資その他の資産		
投資有価証券	4,284	4,674
その他	703,422	753,643
貸倒引当金	△130,102	△140,283
投資その他の資産合計	577,603	618,034
固定資産合計	1,097,328	1,002,181
資産合計	15,182,485	15,416,046
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,002,948	4,306,811
短期借入金	1,101,843	2,775,992
未払法人税等	155,836	20,253
賞与引当金	107,027	65,817
その他の引当金	110,380	3,515
その他	525,231	308,884
流動負債合計	6,003,268	7,481,272
固定負債		
長期借入金	2,063,279	342,085
退職給付に係る負債	134,305	134,658
資産除去債務	85,955	86,724
その他	80,491	64,735
固定負債合計	2,364,031	628,203
負債合計	8,367,300	8,109,476

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	645,547	645,547
資本剰余金	735,426	736,088
利益剰余金	7,248,259	7,748,078
自己株式	△1,837,778	△1,833,064
株主資本合計	6,791,455	7,296,650
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	337	592
為替換算調整勘定	△155,638	—
その他の包括利益累計額合計	△155,301	592
新株予約権	20,131	9,326
非支配株主持分	158,899	—
純資産合計	6,815,185	7,306,569
負債純資産合計	15,182,485	15,416,046

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
売上高	36,241,685	35,962,337
売上原価	32,194,937	31,936,312
売上総利益	4,046,748	4,026,025
販売費及び一般管理費	3,004,241	2,951,141
営業利益	1,042,507	1,074,883
営業外収益		
受取利息	9,159	8,511
受取配当金	10,235	150
受取手数料	—	12,178
持分法による投資利益	11,917	—
助成金収入	15,380	2,921
その他	19,042	3,618
営業外収益合計	65,735	27,380
営業外費用		
支払利息	18,036	16,205
支払手数料	294	7,488
その他	156	3,393
営業外費用合計	18,487	27,087
経常利益	1,089,755	1,075,176
特別利益		
新株予約権戻入益	20,346	13,328
投資有価証券売却益	70,219	—
持分変動利益	6,718	—
特別利益合計	97,284	13,328
特別損失		
減損損失	221,237	32,599
固定資産除却損	6,266	2,930
関係会社株式売却損	—	404,531
その他	2,896	—
特別損失合計	230,401	440,061
税金等調整前四半期純利益	956,638	648,442
法人税、住民税及び事業税	169,581	31,570
法人税等調整額	119,503	△64,116
法人税等合計	289,085	△32,546
四半期純利益	667,553	680,989
非支配株主に帰属する四半期純利益	12,262	5,757
親会社株主に帰属する四半期純利益	655,290	675,232

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益	667,553	680,989
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	81,212	255
為替換算調整勘定	△56,020	164,265
持分法適用会社に対する持分相当額	△38,011	—
その他の包括利益合計	△12,819	164,521
四半期包括利益	654,733	845,510
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	657,611	831,125
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,878	14,384

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の「(追加情報) (新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)」に記載した仮定から重要な変更はありません。

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020(令和2)年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018(平成30)年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	ダイレクト マーケティング 支援事業	DM事業	海外事業	小売事業
売上高				
外部顧客への売上高	20,946,085	13,888,265	656,437	750,897
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,399	35,073	—	126
計	20,947,484	13,923,339	656,437	751,023
セグメント利益又は損失(△)	819,892	304,075	36,453	△119,880

(単位:千円)

	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高			
外部顧客への売上高	36,241,685	—	36,241,685
セグメント間の内部売上高 又は振替高	36,599	△36,599	—
計	36,278,284	△36,599	36,241,685
セグメント利益又は損失(△)	1,040,540	1,966	1,042,507

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、主にセグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」において、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う業績悪化を背景として、連結子会社である株式会社日本百貨店の事業計画に対する進捗状況や今後の業績見通しを踏まえて検討した結果、当第3四半期連結累計期間に同事業に係る事業資産等に対して減損損失49,648千円を特別損失に計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「ダイレクトマーケティング支援事業」において、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う事業環境の著しい変化を踏まえ、連結子会社である株式会社アドフレックス・コミュニケーションズの事業計画に対する進捗状況や今後の業績見通しを踏まえて検討した結果、同社株式取得時に計上したのれん未償却残高305,351千円のうち171,589千円を第2四半期連結会計期間に減損損失として特別損失に計上しております。なお、当第3四半期連結会計期間末時点の当該のれん未償却残高は126,466千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2021年3月1日至2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	ダイレクト マーケティング 支援事業	DM事業	海外事業	小売事業
売上高				
外部顧客への売上高	20,540,472	13,937,126	577,382	907,355
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,883	65,059	—	476
計	20,542,356	14,002,185	577,382	907,831
セグメント利益又は損失(△)	959,752	165,564	4,302	△54,774

(単位:千円)

	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高			
外部顧客への売上高	35,962,337	—	35,962,337
セグメント間の内部売上高 又は振替高	67,418	△67,418	—
計	36,029,756	△67,418	35,962,337
セグメント利益又は損失(△)	1,074,845	38	1,074,883

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、主にセグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間において、連結子会社であるPT. Merdis Internationalの株式を売却したため、PT. Merdis Internationalを連結の範囲から除外しております。この結果、前連結会計年度末に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「海外事業」において620,855千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」において、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う業績悪化を背景として、連結子会社である株式会社日本百貨店の事業計画に対する進捗状況や今後の業績見通しを踏まえて検討した結果、当第3四半期連結累計期間に同事業に係る事業資産等に対して減損損失32,599千円を特別損失に計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。